



自分磨き

理事長 早川 明

社会福祉法人つるかわ学園
つるかわ学園を支える会
☎195-0051
東京都町田市真光寺町
186番地
T E L (042) 735-2220
F A X (042) 736-6374
HP:tsurukawa-gakuen.com

地球の生命は宇宙からもたらされたらしい。はやぶさ二号が小惑星リュウグウより持ち帰った五・四gの砂の分析から、私たちの知っているグルタミン酸などを含む生命の起源となる数十種類のアミノ酸が発見されました。科学知識の乏しい私でも、胸がわくわくしました。

五月号では利用者の皆さんと一緒に歩いた思い出を述べました。今月号では現場から少し離れている思い出を振り返りたいと思います。

後援会とはどんなことをするのかも分からずに、私は後援会担当係になりました。当時の福祉施設のなかには借地に建設された施設も多数あり、富士学園もその一つで、そのことは年間に数百万円の借地料を捻出しなければ施設運営はできないことを意味していました。後援会担当の仕事は関係者の善意によって支えられている後援会募金箱

回収、後援会費の集金と会報の配布でした。集められた善意は借地料に充てられていくのです。当然そのような財政状況下にある福祉施設の法人関係者はお金に苦労していましたので、風聞によれば他所の施設ではお金の不適切な使用を行い、法人責任者の交代をさせられたところもあります。

私は現場からも抜けて後援会業務を行いますので、そのことに理解を示してくれる仲間もいれば、職員は現場、お金集めは法人役員の仕事と言う仲間もいました。そのような狭間でどうして自分が後援会係をしなければいけないのか迷ったり、また土地の自己所有施設を羨ましがったりしたものです。仕事を積むなかで私の仕事への意識は「働いている」から「ここで働かせてもらっている、給料をいただき生活している、労働者だけ」ここを大切に

しなければならぬ」と変わってきました。今日では社会福祉制度も変わってお金の使途も柔軟になり、借地料に苦しむ法人役員はほとんどいなくなつたと思います。

私はきつちとする性分なので、上司から「早川さん自分の希望が百%できると思つてはためだよ、相手に自分と同じ能力を求めてはいけないよ。できないことで心を焦がすより、五十%も出来たと喜んではどうかね」よく諭されました。

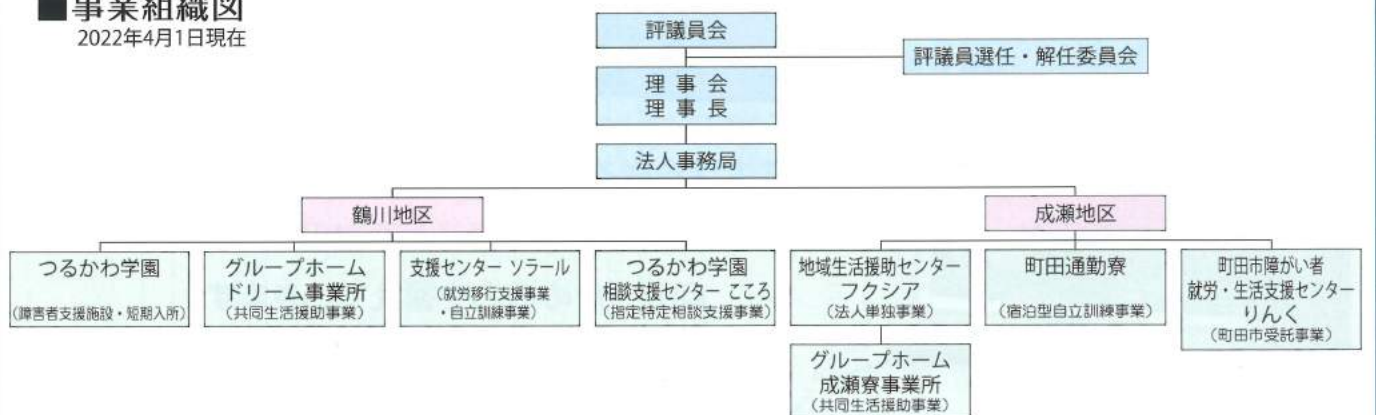
異動は引越を伴いました。大規模と小規模、通所と入所、グループホーム、身体障害、異動のたびに新たな業務を習得しつつ利用者や職員、保護者、行政との新しい関係の構築に心を砕いたことを思い出します。不本意なこともありましたが、新しい環境へは前向きに立ち向かうよう心掛けて乗り越えられたと思つています。

後期高齢者の仲間入りを機に振り返ってみると、廣本前理事長に出会い、育てられ、福祉の道で生きること、私は道端に転がる石ころだとしても磨けばそれなりに光らせてもらつたと、感謝しています。

若い頃には物事が思うように回らない時もありますが、それは誰にもあることで、狭窄的に考え過ぎてはいけません。後々に「私は運が良かった」と振り返えられるように常に自分を磨いてほしいと思います。

事業組織図

2022年4月1日現在





支援センター ソラール
就労移行・生活訓練事業所

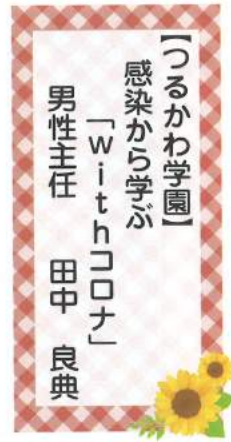


訓練の中で英字新聞を使った雑貨作り、
農作業で出来た野菜や果物を販売し、
実際の仕事を体験する機会を作っています!!



日常生活を送るスキルから、就職に必要なことまで、
ソラールに日々通うことで次のステージに
向かうための力を蓄えていきます!!
興味のある方はお気軽にお問い合わせ下さい。

各事業所より



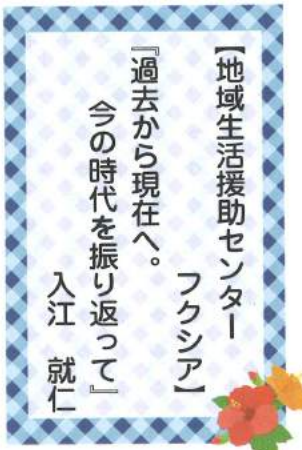
「つるかわ学園」
感染から学ぶ
「Withコロナ」
男性主任 田中 良典

新型コロナウイルス感染症の対応を実施し一年以上経過しました。今年三月四月には学園内でクラスターが発生しました。防護具を身につけながら物々しい姿で支援するため、利用者の方々は何となく状況を察してくれて一緒によく耐えてくれました。幸い重症化する利用者さんや職員はいませんでした。難しい一ヶ月間でした。
その後は、再度、クラスターを起こさないようこれまで行ってきた感染症対応の見直しや改善、日頃の備えなど、コロナを経験したからこそ、今一度、気を引き締め支援に努めている毎日です。
世間では、感染拡大を防止しながら日常生活が出来るよう行動制限の緩和がされ、ライブやイベントの開催、帰省なども出来るようになってきました。学園の利用者さんの様子としては、少人数での日中活動や余暇、また、個別のイベントや昼食会、食事を伴わない外出など、感染

症に注意しながら楽しみある生活が送れるよう努めています。

そのような中、七月より「プリコラーシユのづたの空」にて、ご家族と利用者さんの面会が順次、再開致しました。面会時の注意点はありますが、ご家族、利用者さん共に、待ちに待った二年ぶりの再会です。なぜか私がドキドキ・わくわくしてしまいました。ご家族と利用者さんにとって有意義な時間が過ごせるよう、準備や設定をしていきたいと思

います。
以前のような普段の日常に戻るのも、もうひと踏ん張りだと感じています。なんとか乗り越え、感染から学んだことを新しい生活様式に生かし、ドキドキ・わくわくする素敵な時間を作っていききたいです。



『過去から現在へ。
今の時代を振り返って』
入江 就仁
地域生活援助センターフクシアに勤務して三年目になります。人事異動前は利用者支援を、つるかわ学園で七年、町田通勤寮で四年経験しました。

異動で重度利用者支援と軽度利用者のサービスの提供方法・支援等の違いに少々困惑したのを思い出します。

利用者支援において、重度・軽度共にそれぞれ特有の難しさがあり、重度は身体介護が主となる為、よりニーズを汲み取った身体的な支援が必要となります。一方、軽度は自立されている方が多い分、精神的・心理面でのサポートや支援が必要となるケースが多くあります。

ただ、共通して言える事はたとえ答えのない・見えない・苦労が絶えない支援でも、利用者の幸せを願う、それに全力でサポートできる支援者は輝いているという事です。重度・軽度共に利用者からの「ありがとう」は心の活力です。振り返ると、そういう支援を求めて日々、利用者と接しているのだと感じます。
これからも答えの見えない支援の中でも利用者にとって小さな幸せ・大きな幸せを感じられるよう自己研鑽に努めていきたいと思



おつかれ様

長らく施設外就労をしていた利用者さんが、この度退職の運びとなりました。

沢山の仲間と地域・職場の皆様にご支えられ働く事が出来ました。

これからは、ゆっくり、のんびり楽しい事をしながら過ごしていきます。

温かく見守っていただきましてありがとうございました。

ドリーム管理者 外川 珠枝



平成六年にアークランドに正子さんといっしょに仕事して、不安な所もあったけど周りの人たちが教えてくれてよかったです。少したって盗難被害も経験したり、食事事故にいたり、十年たつて大変な事ばかりでよかったです。思ひます。二〇一六年に正子さんが入院して、めん会に行きました。その後になくなってさびしかった。二〇二二年にコロナで外出など行けなくなりました。さびしかったです。あ、この一ヶ月間に十七年がたつてしまつて、早かった。しかもはの比呂さんにかんしゃしていただきます。
細いひんす



以下の職員が、法人の規定により、勤続十年の永年勤続表彰を受けました。

● 障害者支援施設つるかわ学園

坪根 賢治 美和 孝宣
大泉 祥吾 小林 類

● ドリーム事業所

飯山 勝

● 町田通勤寮

大熊 祐一

● 成瀬寮事業所

高嶋 擁子

● ソラール・りんく

藤本英理子



勤続十年を迎えて

つるかわ学園フロアチーフ

坪根 賢治

私が、つるかわ学園に支援スタッフとして入職したのは、二〇一一年でした。あっといふ間の十年で、ジョギングできていたのが、いつ

の間にかウォーキングになりウォーキングもなかなかできなくなってきた体力の衰えも感じているところです。

入職当時は、西ヶ丘二丁目フロアに配属となり、解らないことだらけでしたが、諸先輩方の指導や同僚の協力もあり何とか現在に至る事ができています。微力ながら私も後輩へ伝えていけるものがあればいいなあと思います。

フロアでは、コロナ禍ということもあり、利用者の皆さんには、楽しみな旅行や外出は制限され、自粛した形でのイベントに参加して頂いています。こういった状況がいつまで続くかは分かりませんが、少しでも皆さんが楽しく思っ頂けるよう日々の生活支援を行っていききたいと考えております。



法人の十年表彰を受けて

ソラール・りんく

管理者 藤本 英理子

十年前、「人の役に立つ仕事がない」と社会福祉士の資格取得を決意したのはいいものの、福祉とは関係の無い仕事をしていた私は「どんな仕事があるのか」さえも分からず、日々求人を見て情報収集をしていました。そんな中「りんく」の求人を見て、「こんな仕事

があるんだ。面白そうだな。勉強にもなりそう」と応募し、あっといふ間に今日に至ります。

障がい者の「就労支援」という分野について、本当に知らない事だらけで、毎日が勉強でした。障害特性、就労支援に関連する技法、生活に関連する各種手続きの知識、相談対応の技術など、この仕事に就いて本当に様々な学びがありました。

現在、管理者として直接支援の仕事だけではなく、自身が身を置く事業所をどう運営していくのかを考える立場にもなり、更に学び、考えなければいけないと痛感する毎日ですが、障がいのある方の自己実現の一助が出来る、やりがいのある仕事に出会えた事に感謝しています。



つるかわ学園 ホームページ
日常のようす、行事のお知らせ等がご覧になれます
アドレスはこちら!!
HP: tsurukawa-gakuen.com

つるかわ学園を支える会のご案内

「支える会」について

国家的財政困難と世情不安定の中にあつて、施設も苦しい状況に置かれています。私達は私達なりに苦しさの中にあつても福祉を支える者として努力を惜しまず頑張っています。今一步の力の支えをこうした形で求めるのは本当に心苦しいのですが、市民の皆様小さな善意はやがて大きな力を生む礎となる事をお約束します。

どうか「つるかわ学園」を支える会にご入会し力を添えてくださいますようお願い申し上げます。

会費

「つるかわ学園を支える会」の会費は、一〇年額三千円ですが、ひとりで何口か入っていたら、ことを歓迎、お願いしております。

会員の方々には、毎年三回発行するつるかわ学園の機関誌「つるかわ」をお送りし、学園の様子を続けてご報告するとともに、この人達の幸せを願う者同志としての親交を深めます。

入会方法

入会してくださる方は、振込用紙を学園にご請求下さい。

振替口座番号

〇〇一〇一七七一九四〇二九加入者

社会福祉法人 つるかわ学園